

三井住友FL、経常利益1450億円目標 26年3月期

2023/05/11 16:46 日本経済新聞電子版 564文字

リース大手の三井住友ファイナンス&リース（SMFL）は、2026年3月期の経常利益目標を23年3月期比6%増の1450億円とする。近く公表する23～25年度の中期経営計画に盛り込む。グループで運用する航空機や不動産などの資産を証券化し、販売する事業を強化。保有資産の拡大を抑制しながら、資産効率の高いビジネスモデルへの転換を目指す。



資産効率の高いビジネスモデルへの転換を目指す

SMFLは傘下に、不動産運用会社ケネディクス、航空機リース会社SMBCAアビエーションキャピタル（SMBCAC）を抱える。26年3月期までの3年間は、これらの会社が運用する不動産や航空機を証券化して、機関投資家などに販売する業務に注力する。主力のリース収入に加え、手数料や売却益で収益を底上げし、資産効率を高めたい考えだ。

サステナビリティ（持続可能性）関連の取引は25年度までに累計1兆円を目指す。従来の目標だった29年度から前倒しする。電気自動車（EV）などモビリティ関連のビジネスも強化する。研修・教育の予算は3倍に増やす。

SMBCACは22年に欧州の同業大手を買収し、航空機リースで世界2位グループとなった。今回の中計期間中に両社を合併する計画だ。中期経営計画の為替水準は1ドル＝120円に置いており、足元の130円台の水準が続けば経常利益がさらに100億円強上振れする計算になるという。

許諾番号30093537日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.